



けんすけタイムズ Rensuke Times

愛知 13 区
碧南・刈谷・安城・知立・高浜

タイトル

予算衆院通過

LINE
公式アカウント



衆議院議員

おおにし健介

様変わりした予算審議



4 日、令和 7 年度予算案が衆議院を通過しました。当初予算案の修正は 29 年ぶりのことです。私は、予算委員として、基本的質疑、集中審議、一般質疑、締めくくり質疑と 4 回、質問に立ちました。

今年の総選挙の結果、少数与党となり、野党から安住予算委員長が就任したことも相まって、緊張感のある予算審議となりました。その象徴が立憲の提案で初めて行われた省庁別審査でした。

立憲では、総勢 70 人規模の議員による「本気の歳出改革作業チーム」を立ち上げ、予算案を精査して、必要性の乏しい予算を洗い出しました。そこで発掘した 3.8 兆円の財源を国民の負担を減らし収入を増やすための政策にまわす政策パッケージを修正案として提出しました。修正案では、学校給食無償化やガソリンなどの暫定税率廃止、高額療養費制度の自己負担上限額の引き上げ凍結などに充てることとしましたが、維新が与党に取りこまれた結果、修正案は否決されました。



立憲民主党 令和7年度当初予算に対する修正案フレーム

政策実現

① 国民の負担を減らす

税負担を減らす

○ ガソリン・軽油価格の引き下げ → 1兆4,999億円

教育費の負担を減らす

○ 学校給食無償化 → 4,900億円
○ 高校無償化の拡充 → 3,709億円

② 国民の収入を増やす

介護・障害福祉、幼稚園・保育園の従事者の収入アップ

○ 介護・障害福祉施設で働く人の処遇改善 → 4,225億円
○ 訪問介護事業者に対する緊急支援 → 357億円
○ 保育士・幼稚園教員の処遇改善 → 1,488億円

働く人等を支援する

○ 「130万円のカケ」対策 → 7,800億円
○ 中小企業の社会保険料負担軽減 → 257億円
○ 高額療養費の自己負担上限引き上げの凍結 → 200億円

3兆7,935億円

財源確保

「本気の歳出改革」の成果

- 突然増えた「一般予備費」の減額 → 5,000億円
- 「ムダな見せ金」基金の活用
 - 防衛装備移転円滑化基金財源の活用
 - ・令和7年度の繰入取り止め → 400億円
 - ・基金残高の一部返納 → 400億円
 - コロナワクチン生産体制等緊急整備基金の一部返納 → 1,000億円
 - グローバル・スタートアップ・キャンパス基金取り崩し → 636億円
- 大臣が不用と認めた基礎年金給付費の一部活用 → 4,582億円
- 「3年ルール」を逸脱した「積み過ぎ」基金の一部活用 → 1兆7,878億円
- 地方創生交付金の一部活用 → 1,000億円
- 補正予算の水ぶくれの原因となった基金積み増しの適正化
 - ・宇宙戦略基金の一部返納 → 2,039億円
 - ・経営安定関連保証等特別基金など → 5,000億円
 - 経産省所管基金の一部返納

3兆7,935億円

【衆議院議員 おおにし健介事務所・立憲民主党愛知県第13区総支部】

〒446-0074 愛知県安城市井杭山町高見 8-72F TEL: 0566-70-7122 FAX: 0566-74-2008 メール office@oniken-web.jp

命軽視、国民生活無視の予算案

与党は、維新が求めた高校無償化の修正を受け容れることで、予算案の衆院通過を図りましたが、我々が再三にわたり求めた高額療養費の上限引き上げの全面凍結は最後まで拒否しました。

ガンなどに罹患している方々の命を脅かし、最大で7割となる高療引き上げには、「国家的殺人」との厳しい批判まであったにもかかわらず、当事者である患者の声を十分に聴くことなく強行する暴挙は断じて許すことができません。

また、来年度予算が対応すべき最大の課題は物価高であり、国民は食品やガソリン高騰に苦しんでいるのに、暫定税率廃止を決めておきながら、ガソリン価格引き下げに重い腰を上げない政府は国民生活の窮状が分かっているのでしょうか。現在の水準は、トリガー条項が発動される水準であり、立憲が示した財源を使えば4月からのリッターあたり25.1円の暫定税率引き下げは可能です。その上で令和8年度の恒久財源については与野党で一緒に考えればよいのです。国民は、今、ガソリン高に苦しんでいるのであって、一年後では遅いのです。

財源、財源という与党の修正案も独法からの納付金等恒久財源ではなくワンショットの財源しか示せておらず、しかも立憲が示したワクチンの基金からの返納金も使うとこととしています。ないのは財源ではなく、やる気、本気です。

立憲は、税調会長の私も提出者となり、国民民主と共同で暫定税率廃止の税法修正案を提出しましたが、否決されてしまいました。

政治への信頼を取り戻せ



予算審議の過程では、懸案となっていた旧安倍派の会計責任者の参考人招致が紆余曲折の末、行われました。元会計責任者は同席しただけで、キックバック再開を決めたのは安倍派幹部の議員だったことが明らかとなり、政倫審での証言が虚偽だった可能性が高まっています。

石破総理は、企業・団体献金によって政治が歪められたことはないと言いますが、巨額の政策減税を受けた企業名が非公開のままでは、客観的に検証することもできません。立憲は、租税特別措置の透明性を強化する税法の修正案を提出しました。

国民の信頼を失った石破政権に過去最大の115兆円の予算を組む資格はないはずです。



野党は、まとまれ



予算の修正を巡っては、野党各党が個別に与党と協議を行った結果、野党間の手柄争いに終始し、与党は野党の足並みの乱れに乗じて、野党各党の修正要望をてんびんにかけるという結果となりました。

立憲、維新、国民の3党を中心に野党がまとまっていれば、予算委員長も野党側であり、追い込まれた石破内閣は、もっと譲歩を迫られた可能性もあります。

私は、野党が自民党に「陳情」し、政策要望を聞き容れてもらうというやり方には所詮限界があると思います。今年の総選挙で示された民意は、自民党政権へのノーであり、自民党の政権運営をアシストすることではないはずで、野党は参議院選挙に向けて、再度、そのことを肝に銘じるべきだと思います。

Profile



▶昭和46年4月13日生まれ ▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選。以来、連続6期当選。

▶党務では、選対委員長、青年局長などを経て、現在は税調会長

▶国会では、予算委員会、厚生労働委員会、消費者特別委員会（筆頭理事）

▶小学生、中学生2人の男の子のパパ。ニックネームは「オニケン」